

新潟水俣病地域福祉推進条例

「県の基本的施策」に基づく取組について

～ 令和 5 年度の実施状況及びこれまでの実績 ～

〈 第 5 条 県の基本的施策 〉

1 新潟水俣病患者への保健・福祉対策

新潟水俣病患者の福祉の増進を図るため、療養等による経済的負担の軽減を目的とした手当の支給や、患者の心身の状況等に応じた保健や福祉に関する取組を行う。

2 地域社会の再生・融和の促進

新潟水俣病によって人々の絆に深刻な影響を受けた地域社会の再生と融和が図られるよう、新潟水俣病の被害者を含めた地域住民の交流を促進する取組を行う。

3 教育・啓発の推進

県民が、新潟水俣病についての正しい理解を深め、新潟水俣病の歴史と教訓を将来に伝えることができるよう、新潟水俣病に関する教育の推進や啓発活動の充実などを行う。

4 民間団体等の活動の促進

民間団体等が自発的に行う新潟水俣病の歴史と教訓を伝える活動や、新潟水俣病により生じた問題の解決のための活動が促進されるように努める。

5 ふれあい館の活用と情報発信

教育の推進や啓発活動の充実、民間団体等の活動を促進するため、新潟県立環境と人間のふれあい館（以下、「ふれあい館」という）を活用した新潟水俣病に関する情報の発信や提供を行う。

誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現

1 新潟水俣病患者の保健・福祉対策

■訪問保健指導事業

新潟水俣病患者の健康不安等を解消するため、保健師等が患者の家庭を訪問し、健康管理指導等を実施します。

- 医療手帳、被害者手帳所持者に対して、五泉市、阿賀野市及び阿賀町の保健師等が実施（県から委託）

※ 県の認定患者に対しては、別の事業で県の保健師が実施

新潟市の認定患者・手帳所持者に対しては、新潟市の保健師等が実施

【R5 年度】

- 訪問件数：101 件（R5.11 末現在）

（参考）

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
訪問件数	187	288	293	277	250	235	221	220	198	183	183	101

■相談窓口体制整備事業

新潟水俣病発生地域に居住する住民の健康不安や、水俣病諸制度の案内・受付を始めとした幅広い相談等に応じるため、総合的な相談窓口を設置します。

- 五泉市、阿賀野市及び阿賀町の各市役所・町役場の本所及び支所に年間を通じて相談窓口を設置（県から委託）

- 設置数：計10か所（受付業務のみの支所も含む）

※ 新潟市は保健衛生総務課のほか、各区役所、地域保健福祉センターに設置
〔計 16 か所〕

【R5 年度】

- 相談件数：113 件（R5.11 末現在）

- 主な相談内容

- ・ 「新潟水俣病福祉手当」や「健康不安者に対する健診」、その他公健法に基づく「認定申請」など、水俣病に関する各種制度の申請等に関すること
- ・ 水俣病関係の各種手帳の利用に関すること
- ・ しびれやふるえ、その他健康不安に関すること



（相談窓口チラシ）

（参考）

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
相談件数	1,250	147	304	266	235	193	168	229	155	131	129	113

■ 介護予防在宅支援事業

しびれなどの神経症状を有する方に対して、日常生活で役立つケア方法の学習や次世代を担う学生（QOLサポーター）と交流する機会を提供し、心身両面から健康不安の解消を図ります。

また、患者が抱えている症状の緩和方法等についてのハンドブック及び保健・医療・福祉専門職用ガイドブックをもとに、保健・福祉関係者等への研修会を実施します。

◎ 阿賀野川流域地域健康教室委託

令和2年度から新潟医療福祉大学に委託し、流域の市町において、しびれなどの神経症状により健康不安をお持ちの方を対象にした健康教室を開催

【R5年度】

- ・ 五泉市会場 開催日：10月21日（土）、参加者：21名
- ・ 阿賀野市会場 開催日：10月29日（日）、参加者：9名
- ・ 阿賀町会場 開催日：10月22日（日）、参加者：9名

○ 健康教室実施内容

しびれなどの神経症状に関する講話(脳神経センター阿賀野病院院長 近藤先生)
学生によるレクリエーション(新潟医療福祉大学 社会福祉学科2年生、3年生)

(参考)

年度	開催と参加の状況
R2	五泉市で25名、阿賀野市で26名、阿賀町で24名
R3	五泉市で16名、阿賀野市で13名、阿賀町で9名
R4	五泉市で33名、阿賀野市で9名、阿賀町で9名

○ 開催状況

脳神経センター阿賀野病院近藤院長が、しびれ・痛みとの上手な付き合い方として健康に関する講話を行った。

その後、参加者と学生がレクリエーションと足湯を通して交流を行った。

○ 参加者からの感想

良い講演をしていただきありがとうございました。(阿賀町会場参加者)、学生との交流が楽しかった。(阿賀野市会場参加者)、健康でいるために頑張ろうと思う。(五泉市会場参加者)等、概ね好評であった。



(五泉市会場)



(阿賀野市会場)



(阿賀町会場)

◎ ケアガイド研修会

平成 22 年度から、流域の市町において、保健・医療・福祉関係者への研修会（ケアガイド研修会）を開催。

【R5 年度】

- ・ オンライン開催 開催日：10 月 5 日、参加者：45 名

年度	開催と参加の状況
H30	新潟市で 54 名、阿賀野市で 19 名
R1	新潟市で 41 名、五泉市で 16 名
R2	新潟市で 33 名、阿賀町で 11 名
R3	オンライン開催 参加者：46 名
R4	オンライン開催 参加者：40 名

(参考)

【ハンドブックの作成、配付】

- 平成 21 年度に新潟水俣病患者 50 名に聞き取り調査を実施し、新潟市と共同で作成（新潟大学医学部保健学科に委託）
- 平成 22 年度に被害者の方々、関係者、流域市町等に配付

【健康教室の開催（事業主体：流域市町）】※令和元年度まで

- 平成 23 年度から、市町に委託し、新潟水俣病患者を含めた地域の高齢者等を対象にした健康教室を開催
- 水俣病の症状や対処方法を学び水俣病に対する理解を深めるとともに、健康体操やレクリエーションの実施により心身機能の向上を図るなど介護予防への支援を実施



(ハンドブック表紙)

年度	開催と参加の状況
H27	五泉市で計 13 回開催し、延べ 155 名参加
H28	阿賀町で計 8 回開催し、延べ 172 名参加
H29	阿賀野市で計 4 回開催し、延べ 65 名参加
H30	五泉市で計 13 回開催し、延べ 162 名参加
R 1	阿賀町で計 2 回開催し、延べ 26 名参加

■水俣病研究委託事業

水俣病に関する研究成果の蓄積が、水俣病の検査や診断等に資することを目的として、水俣病に関する調査研究を新潟大学に委託します。

- 新潟水俣病の症状が多岐にわたることから、各科ごとに研究課題を設定し実施
- 実際の検査や診断に反映させていくためには、長年にわたり研究成果を蓄積していくことが重要

【R5 年度】

- 新潟大学医学部神経内科、眼科、耳鼻咽喉科で実施

(参考)

平成 21 年度から毎年継続して実施

■新潟水俣病福祉手当

新潟水俣病患者の療養及び健康管理等に係る経済的負担の軽減を図るため、新潟水俣病福祉手当を支給します。

- 支給対象者：
 - 新潟水俣病患者であって、次の各号のいずれかに該当することにより通常のレベルを超えるメチル水銀の曝露を受けた可能性のある者であり、一定の症状を有すると認められる者
 - (1) 昭和 40 年 12 月 31 日以前に、対象地域に相当期間居住しており、かつ阿賀野川の魚介類を多食したと認められる者
 - (2) 昭和 40 年 12 月 31 日以前に、阿賀野川の魚介類を多食したと認められる者であって、知事が適当と認める者
 - ※ 公健法により水俣病の認定を受けた者を除く
- 支給額：月額 7,000 円
 - ※ 新潟市居住者分については、新潟市が費用の 1 / 2 を負担
- 支給月：2 月、6 月、10 月（末日支給）
- 支給開始月：申請日の翌月分から支給（平成 21 年 4 月から受付開始）

【R5 年度】（R5.11 末現在）

- 支給対象者数：1,845 名

(参考)

年 度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
支給対象者数	788	1,053	1,530	2,217	2,365	2,333	2,370	2,324	2,267	2,204
年 度	R1	R2	R3	R4	R5					
支給対象者数	2,135	2,067	1,999	1,924	1,845					

■健康不安者フォローアップ健診事業

特措法に基づく救済措置に申請した結果、対象とならなかった方の健康不安を解消するため、健康診査及び保健指導を行います。

- 対象者： 特措法に基づく救済措置に申請した結果、対象とならなかった方で、昭和46年末までに1年以上、阿賀野川流域の魚介類を食べたことに伴い、健康不安を訴え、登録する方
- 内容：
 - ・ 医師等による、診察、問診、身体測定、血圧測定、尿検査、血液検査、視力検査、聴力検査、心電図の検査および保健師等による、健康不安や一般的な生活習慣に関する助言等の保健指導
 - ・ 年1回、指定医療機関（全国17か所）において無料で実施

【R5年度】（R5.11末現在）

- 受診件数：1件

（参考）

年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
受診件数	0	5	5	5	3	3	3	3	5	4	2	1

※ 特措法が締め切られた平成24年度から事業開始。平成24年度は希望者なし。

■健康不安者に対する健診事業

特措法に申請を行わなかった方で、阿賀野川流域魚介類を食べたことにより健康不安を申し出た方に対し、健康診査および保健指導を行います。

- 対象者： 特措法に基づく救済措置の申請を行わなかった方で、昭和46年末までに1年以上、阿賀野川流域の魚介類を食べたことに伴い、健康不安を訴え、登録する方
- 内容：
 - ・ 医師等による、診察、問診、身体測定、血圧測定、尿検査、血液検査、視力検査、聴力検査、心電図の検査および保健師等による、健康不安や一般的な生活習慣に関する助言等の保健指導
 - ・ 年1回、指定医療機関（全国17か所）において無料で実施

【R5年度】

- 受診件数：12件（R5.11末現在）

（参考）

年 度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
受診件数	3	8	13	23	33	25	29	22	18	16	14	12

※平成24年12月から募集開始。

■健康不安者に対する健康相談事業

阿賀野川の魚介類を食べたことによる健康不安をお持ちの方に対して、脳神経内科医師に相談する機会を提供することにより、健康不安の解消を図ります。

○ 対象者

昭和 41 年以降に阿賀野川流域で居住を開始（出生も含む）し、昭和 46 年末までに 1 年以上阿賀野川の魚介類を食べたことによる健康不安を持っている者

※ 公健法の認定申請を行っている者（認定者含む）、福祉手当の対象となっている者、
県外居住者は対象外

○ 内容

新潟大学医歯学総合病院の脳神経内科医師により、対面で対象者（最大 20 名程度）に健康相談（年 1 回）を行うもの

【R5 年度】

事業開始の令和 3 年度と翌 4 年度とも相談申込がなかったことから、今年度の実施を見送るとともに、今後の阿賀野川流域の方の健康不安の解消については、令和 2 年度から拡充した「阿賀野川流域地域健康教室」で対応する。

（参考）

年度	開催と参加の状況
R 3	オンライン開催（申込者がなく中止）
R 4	申込者がなく中止

■認定申請棄却者に対する訪問保健指導事業

公健法に基づく水俣病の認定申請を棄却された方の健康不安等を低減するため、保健師等が訪問し、健康管理指導等を実施します。

○ 特措法の受付終了後に認定申請を棄却された流域市町在住の方のうち、健康指導を希望する方に対して、保健師等が訪問して実施

※ 新潟市、阿賀野市については、県から保健師に直接委託

※ 五泉市、阿賀町については、県から市町に委託

【R5 年度】

○ 申込件数：9 件（R5. 11 末現在）

〔新潟市 3 件、阿賀野市 5 件、五泉市 1 件〕

○ 訪問件数：4 件（R5. 11 末現在）

〔新潟市 3 件、五泉市 1 件〕

（参考）

年度	訪問状況
R 4	新潟市 2 件、阿賀野市 8 件

■新潟水俣病に係る式典（令和5年度新規事業）

二度と水俣病のような公害被害を起こさないとの決意のもと関係者が集い、新潟水俣病の歴史と教訓を伝えることを目的に式典を開催します。

- 開催日
令和5年5月31日（水）
- 会場
新潟県立環境と人間のふれあい館
- 参集者
被害者、有識者、教育関係者、関係企業、行政関係（国、流域市町、新潟県）等
- 内容
各団体代表者からの後世へのメッセージ、新潟水俣環境賞作文コンクール優秀受賞者の作文朗読（録画映像）、講演会（環境と人間のふれあい館館長、水俣市立水俣病資料館館長による講演）



（R5式典の様子）

2 地域社会の再生・融和の促進

■阿賀野川流域地域フィールドミュージアム（FM）事業

阿賀野川流域の各地域がかつて発生した新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、新潟水俣病の教訓を伝える環境学習や、光と影をテーマとしたイベント、地域の人々との話し合いなど、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指した様々なプロジェクトを展開します。

①環境学習分野

今日にも通じる新潟水俣病の教訓を未来に生かせる環境学習を目指し、『阿賀野川え〜とこだ！環境学習』を構築

【R5 年度】（R5.11 未現在）

○ 「あがのがわ環境学習ツアー」の実施

- ・開催回数：16回（4～10月）
- ・参加者数：延べ388名

（県内の小学校の修学旅行生、県外の高校生、県内の大学生、県内親子など）

○ 阿賀町教職員向け研修及び企業CSR研修・行政職員の合同研修の実施

- ・開催回数：4回（6月、8月、10月）
- ・参加者数：45名（企業社員10名、教育関係者35名）

※「旧昭和電工(株)鹿瀬工場の光と影の歴史を辿るプログラム」（座学45分＋視察60分）、「鹿瀬工場の現在の排水処理の取組を学ぶプログラム」（座学30分＋視察30分）または「阿賀町近代産業の光と影の歴史を辿るプログラム」（座学45分＋視察95分）新潟水俣病の教訓やCSRへの理解を深めるワークショップ体験（30分）を組み合わせ実施。令和4年度からは、教職員向けの座学のみで完結する「新潟水俣病の被害を学ぶプログラム」（座学120分）の提供も開始。



（R5「研修事業」の様子）

○ 新潟水俣病の現地学習サポートパックの実施

- ・ 対 象：県内小中学校
- ・ 開催回数：27 回（4 月～11 月）
- ・ 参加校数：県内小中学校：14 校（延べ 561 名）

※小中学校の現地学習を事前事後の出張授業を含めトータルでサポート



（R5「現地学習サポートパック」の様子）

（参考）

【環境学習基本理念の作成】

- 平成 21 年度から、阿賀野川流域の環境の専門家やNPOなどが参加した「環境理念ワーキングチーム」において議論を重ね、平成 22 年度に完成。

【あがのがわ環境学習ツアー】

- 過去の開催、参加状況
 - ・ R 2：10～12 月に計 6 回開催、県内の小学校の修学旅行生、県内の大学生、県内親子など延べ 177 名
 - ・ R 3：6、10～11 月に計 6 回開催、県内の小学校の修学旅行生、県内の大学生、県内親子など延べ 163 名
 - ・ R 4：6～11 月に計 17 回開催、県内の小学校の修学旅行生、県内の大学生、県内親子など延べ 350 名

②イベント分野

地域住民と共に、自らの地域の歴史に向き合い見つめ直してもらう機会として阿賀野川の歴史・生活・文化の光と影や地域のあり方について考えを深める講座やパネル展の実施、FM事業の取組を広く周知するフォーラムの開催等

【R5 年度】（R5.11 末現在）

- ☆ 令和 5 年度は新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に位置づけられたことから、十分な感染対策を行い開催した。なお、座学部分については、対面での開催だけでなく、その様子をオンライン配信するハイブリット形式で実施した。
- 阿賀流域再発見・連続ツアー講座「阿賀野川流域の SDGs をさぐる～清らかな水を守り活かす、阿賀野川上流域の持続可能な豊かさとは？」

【座学】

- ・ 開催日：令和5年9月3日
- ・ 開催形式：対面式座学とオンライン配信（YouTube ライブ配信）の同時開催
- ・ 対面式座学の会場：新潟ユニゾンプラザ
- ・ 参加人数：対面式座学 28 名
オンライン配信視聴数：41 回（※開催日からバスツアー2日目開催日まで〔14日間〕の合計視聴数、なお申込者は17名）
- ・ 内容：現地バスツアーで巡る各スポットの事前情報をゲストが解説し、「阿賀野川上流域における水の豊かさ」の全体像や「新潟水俣病の光と影」を学ぶ

【現地視察（バスツアー）】

- ・ 開催日：【現地バスツアー1日目】令和5年9月9日
【現地バスツアー2日目】令和5年9月16日
- ・ 開催会場：阿賀町の各スポット
- ・ 参加人数：合計68名
- ・ 内容：【現地バスツアー1日目】麒麟山酒造(株)酒米圃場の稲刈り見学・麒麟蔵（製造場）と鳳凰蔵（貯蔵棟）見学・植林活動の説明、榊屋商店見学、栗瀬区の中道清水見学、柴倉区のブナ林散策 等
【現地バスツアー2日目】阿賀野川での木舟乗船体験と阿賀野川の川魚ミニ講義、津川河港に関する座学とまち歩き、旧昭和電工（株）鹿瀬工場（現新潟昭和）周辺の現地見学 等



（R5阿賀流域再発見・連続ツアー講座の様子）

- パネル巡回展「阿賀野川流域地域 水と大地のSDGsをさぐる【大河編】 清らかな水を守り活かす持続可能な豊かさとは？」
 - ・ 新潟水俣病問題が今なお続く阿賀野川流域地域のSDGs（※「Sustainable Development Goals」（＝持続可能な開発目標）の略称）をテーマに、阿賀野川の水の行方や過去の「水との闘い」を振り返り、清らかな水を守り活かす現在の取組を紹介するパネルを作成。
 - ・ 令和6年1月から3月にかけて、阿賀野川流域市町の公共施設等11会場で開催予定。
- 阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム
 - ・ FM事業の取組内容を一般県民や関係者などに広く周知するためのフォーラムを昨年度に引き続き年度末頃に開催予定。

【近年のイベント開催状況】

○ 阿賀流域再発見・連続ツアー講座

回数	開催年月日	会場	参加者数
第4回	令和3年11月27日	オンライン配信	視聴 113回
	令和3年11月28日		視聴 62回
第5回	令和4年11月3日	環境と人間のふれあい館	22名
		オンライン配信	視聴 50回
	令和4年11月12日、13日	阿賀野川流域の各スポット	23名
第6回	令和5年9月3日	新潟ユニゾンプラザ	28名
		オンライン配信	視聴 41回
	令和5年9月9日、16日	阿賀野川流域の各スポット	68名

○ パネル巡回展

年度	時期	会場
R2	3月～	ヴァーチャル展示会としてWEB上にパネル作品を公開
R3	12月～3月	新潟市、阿賀野市、阿賀町の公共施設等5会場
R4	12月～3月	新潟市、五泉市、阿賀野市、阿賀町の公共施設等11会場



(参考：R4「パネル巡回展」の様子)

○ 阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム

回数	開催年月日	会場	参加者数
10	令和2年3月28日	新潟市江南区文化会館	-
11	令和4年3月16日	オンライン配信後、ダイジェスト動画公開	視聴 73回
12	令和5年3月21日	環境と人間のふれあい館	25名
		オンライン配信	視聴 82回



(参考：R4「阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム」の様子)

③情報発信分野

F M事業の取組を情報発信し、事業の目指す方向性を幅広く周知

【R5 年度】(R5. 11 末現在)

○ 「阿賀野川え～とこだ！流域通信」の管理運営(平成 21 年度～)

- ・ F M事業の取組の最新情報や阿賀野川流域の魅力溢れる人・自然・文化・歴史などを紹介

(参考)

【「阿賀野川え～とこだ！流域通信」】

<http://www.aganogawa.info/>



○ 情報誌「阿賀野川え～とこだより」を発行

- ・ F M事業の各種取組を幅広く発信する定期情報誌を 2 回(各号 9 万部程度)作成
- ・ 阿賀野川流域地域(新潟市、阿賀野市、五泉市及び阿賀町)の各家庭に配付するとともに、新潟水俣病患者や支援団体、各種施設などにも配付し、幅広く情報発信
- ・ 「第 37 号」: 阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2023、阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム(第 11 回)開催レポート等の特集、8 月発行
- ・ 「第 38 号」: 阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2023 の開催レポート等の特集、3 月発行予定



(え～とこだより第 37 号)

【情報誌「阿賀野川え～とこだより」】

第 31 号: 阿賀野川流域地域の光と影を学べる小中学生向けの教材、これまで開催したパネル巡回展等の特集、令和 2 年 11 月発行

第 32 号: 新潟水俣病学習用の YouTube 風映像教材やパネル作品のリモート展示会等の特集、令和 3 年 3 月発行

第 33 号: 阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2021、パネル巡回展等の特集、令和 3 年 10 月発行

第 34 号: 阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2021 の開催レポート、阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム(第 10 回)等の特集、令和 4 年 3 月発行

第 35 号: 阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2022、令和 4 年度巡回パネル展、阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム(第 10 回)等の特集、令和 4 年 10 月発行

第 36 号: 阿賀流域再発見・連続ツアー講座 2022 の開催レポート、阿賀野川エコミュージアムを目指す流域再生フォーラム(第 11 回)等の特集、令和 5 年 3 月発行

④ロバダン！（炉端談義）

- 地域の様々な方々で行う少人数（10名程度）の寄り合い（ロバダン）を流域各地で開催し、地域の様々な意見を伺うとともに、FM事業の周知や参加への呼びかけ、流域の地域資源等の発掘等を行う

【R5 年度】（R5.11 末現在）

- 合計 14 回開催（下流域 4 回、中流域 1 回、上流域 9 回）
- 主な意見等

〔阿賀町〕

- ・ かつて工場の近くに住んでいたが、子どもたちで排水口付近で遊んだり、金属などを回収するバイトもしていた記憶がある。後年、その中から、新潟水俣病の被害者が出ていたことを知り、大変ショックを受けている。今になって当時を思い返すと、もしかしたら他にも被害者はいたのかもしれないと感じる。

〔阿賀野市〕

- ・ 両親が実は新潟水俣病の被害者で、もしかしたら裁判にも関係していたのかもしれないが、詳しくは聞いていない。地域の中にお地藏さんが建てられていたことは知っていたが、それがどのような地藏かまで詳しくは知らなかった。ただ、地域外から様々な人たちがお参りや見学に来ているようで、今後は自分たちにもできることがあれば協力したい。

〔新潟市（北区）〕

- ・ 全国ではコウノトリやトキなどの渡り鳥や水鳥が暮らせる水環境を再生したり、地域との調和を図る試みが行われてきたが、実際のところそうした地域再生は地域社会との間に摩擦が生じるなど課題を抱えている。潟や大河など水鳥や渡り鳥にとっての豊かな水環境が残る阿賀野川流域で展開されている FM 事業での取組の数々には、そうした地域再生の課題を解決するヒントが詰まっており、今後の参考にしていきたいと考えている。



（R5「ロバダン！（炉端談義）」の様子）

（参考）

【R4 年度】 合計 20 回開催（下流域 8 回、中流域 5 回、上流域 7 回）

3 教育・啓発の推進

■水俣病発生地域間交流事業

水俣病の教訓を次世代に継承するため、水俣病発生地域である新潟、熊本両県の小学生が交流します。

- 水俣市の小学生と共に水俣病や水俣市の取組等について学習
 - ・ 水俣病患者との交流
 - ・ 水俣病に関する学習成果発表、意見交換会の開催

【R5 年度】

- 新型コロナウイルス感染症流行下であることを踏まえ、前年度に続き、現地交流は見送り、新潟県と熊本県の小学校をリモートで結んで交流事業を実施した。
- 新潟市立岡方第一小学校 5 年生 11 人と水俣市立久木野小学校 5、6 年生 7 人が参加。
- 交流の内容
 - ・ 水俣病・環境問題への理解を深める学習に取り組み、成果を発表する。
第 1 回リモート授業（11 月 27 日）：学校紹介、学習成果を発表し合うことの約束
第 2 回リモート授業（2 月予定）：取組成果を発表。両校の親交・親睦を深める。



参考：岡方第一小学校と久木野小学校とのリモート交流（第 1 回目）の様

【R4 年度】

- 新型コロナウイルス感染症流行下であることを踏まえ、現地交流は見送り。
- 五泉市立巢本小学校（5 年生 16 人）と水俣市立葛渡小学校（5、6 年生 10 人）の授業をリモートで結んで交流事業を実施。水俣病や環境問題への理解を深める学習に取り組み、その成果を発表し合った。

■新潟水俣病の教訓の伝承等に係る講演会開催事業

新潟水俣病の教訓を県民に広く普及啓発するため、各所から講師を招き、講演会を開催します。

【R5 年度】

1992 年に公開された新潟水俣病を抱えて生きる 3 組の老夫婦の日常を描いたドキュメンタリー映画「阿賀に生きる」の誕生 30 年+1 年記念イベントとして、映画「阿賀に生きる」と、その続編として制作された映画「それからどしたっ！『阿賀に生きる』その後」の上映会を開催。また映画に関った方たちによるトークイベントや、写真展「『阿賀に生きる』30 年」も併せて開催。

- 映画「阿賀に生きる」上映会
&伊藤芳保写真展「『阿賀に生きる』30 年」オープニングトーク
 - ・ 令和 5 年 11 月 11 日（土）
 - ・ 参加人数 35 名
- トーク会「なんで阿賀が好きなの？」
&映画「それからどしたっ！『阿賀に生きる』その後」上映会
 - ・ 令和 5 年 11 月 12 日（日）
 - ・ 参加人数 50 名

【R2 年度、3 年度、4 年度】

阿賀野川で撮影を行った映画「ある船頭の話」で脚本・監督をされたオダギリジョー氏を講師に迎え、これまで新潟水俣病に関心が薄かった層をターゲットに講演会を開催する予定であったが、R2, 3 年度は新型コロナウイルスの感染拡大により見送り、R4 年度は年度途中で講師側から辞退の申し出があり、中止とした。

■教師用指導資料等作成事業

新潟水俣病の教訓を、次世代を担う小・中学生に継承するため、教師用指導資料や副教材を作成し、活用を図ります。

【R5 年度】

- 中学生以上用副教材「新潟水俣病のあらまし」を改訂予定。
資料はホームページで公開し、ダウンロード可能とするとともに、冊子は 5,000 部印刷して県内教育機関及び一般の方々に配付予定。

(参考) これまでに作成した資料の概要

【新潟水俣病教師用指導資料集】

- 作成の経緯
 - ・平成 20 年度 教師用指導資料作成委員会設置
 - ・平成 21 年度 委員会で作成した指導資料素案に基づき、モデル授業を実践
実践結果をもとに素案の検証を行い、指導資料作成

- ・平成 22 年度 公立の小中学校、特別支援学校等など県内約 800 校に配付
- ・平成 27 年度 第 2 集を 5,500 部作成し、県内小・中学校及び教育委員会等に配付
- 県教育委員会が発行する「教育月報」による周知
 - ・平成 22 年 3 月：「新潟水俣病教師用指導資料集の発行について」
 - ・平成 23 年 1 月：「新潟水俣病学習の推進～新潟水俣病教師用指導資料集を活用した授業実践に向けて～」
 - ・平成 24 年 1 月：「新潟水俣病学習の推進～新潟水俣病教師用指導資料集を活用した授業実践紹介～」として、県内の小学校 3 校による指導資料集を活用した授業実践事例を掲載
- 小・中学校での活用状況（新潟市を除く）
 - 平成 30 年度：小学校 74.9%（266 校／355 校）、中学校 42.9%（73 校／170 校）
 - 令和元年度：小学校 80.6%（279 校／346 校）、中学校 48.8%（82 校／168 校）
 - 令和 2 年度：小学校 83.6%（286 校／342 校）、中学校 43.1%（72 校／167 校）
 - 令和 3 年度：小学校 81.2%（272 校／335 校）、中学校 44.3%（74 校／167 校）
 - 令和 4 年度：小学校 78.6%（261 校／332 校）、中学校 45.5%（76 校／167 校）

【小学校用副教材「未来へ語りついで」】

- ・平成 23 年度に改訂版を 25,000 部作成し、県内小学校約 530 校の 5 学年児童に配付
- ・令和 3 年度に改訂版を 700 部印刷して希望校へ配布。ホームページからダウンロード可能とした。

【中学生以上用副教材「新潟水俣病のあらまし」】

- ・平成 24 年度に改訂版を 29,000 部作成し、県内中学校 241 校の生徒及び教育機関に配付する他、一般向け資料として配付
- ・令和元年度に改訂、5,000 部印刷し、県内教育機関及び一般の方々に配付

【中学生用副教材「新潟水俣病が教えてくれたもの～人間の活動と環境のかかわり～」】

- ・平成 25 年度に 26,000 部作成し、県内中学校全校 240 校に配付
- ・平成 30 年度に 10,000 部作成し、県内中学校及び教育委員会等に配付

【環境学習等支援事業実施報告書・授業記録集】

- ・平成 26 年度に、5 か年の授業記録をまとめた記録集 4,000 部作成し、県内小・中学校等に配付

【はじめての新潟水俣病リーフレット】

- ・平成 26 年度に 20,000 部作成し、県内小・中学校・高等学校等に配付

【新潟水俣病が教えてくれたもの～豊かな阿賀野川の自然と人～】

- ・平成 28 年度に 50,000 部作成し、県内小学校及び教育委員会等に配付
- ・令和 4 年度に改訂版を 20,000 部印刷して希望校や来館者等に配布。ホームページで公開し、ダウンロード可能とした。

【現場から学ぶ新潟水俣病～教訓を語り継ぐ～】

- ・平成 29 年度に 5,000 部作成し、県内小・中学校及び教育委員会等に配付

【水俣病発生地域間交流事業 事業報告書・記録集】

- ・令和 2 年度 700 部作成し、参加校及び教育委員会等に配布

■小・中学校への環境学習等支援事業

子どもたちに、新潟水俣病のような悲劇を繰り返さない力や、差別・偏見をなくす力を身につけてもらうため、小・中学校が家庭や地域と連携して実施する環境学習や人権学習を支援します。

【R5 年度】

- 県内 9 校をモデル校に指定し、環境学習等を実践

学校名	活動テーマ
上越市立東本町小学校	見つめよう私たちの「食・人・命」
上越市立北諏訪小学校	食の大切さ・ありがたさ
上越市立上下浜小学校	上越市柿崎地区の海を取り巻く環境保全への取り組み
五泉市立五泉小学校	○五泉市に生息する魚トゲソを通して水と汚れについて学び、環境保護への問題意識をもつ。 ○公害問題を通して近くで起きた新潟水俣病を学ぶ。 ○公害問題と水との関わりについて学ぶ。
五泉市立五泉南小学校	○五泉市に生息する魚トゲソを通して水と汚れについて学ぶ。 ○阿賀野川流域で発生した新潟水俣病を通じて、水環境を守る大切さを学ぶ。
五泉市立川東小学校	トゲソの里 水の里 川東
五泉市立村松小学校	○守ろうトゲソと五泉の水環境 ○守ろう安全な暮らしと水環境
五泉市立愛宕小学校	○五泉市に生息する魚トゲソを導入として、水の汚れや環境問題の基礎的な学習を学ぶ。 ○阿賀野川の学習を通して、新潟水俣病を学ぶ。
上越市柿崎中学校	地域や私たちの健康で安全な暮らしを守るために私たちにできることを考えよう

- ・ 新潟市も同様に事業を実施（9校）

新潟市立葛塚東小学校、東山の下小学校、浜浦小学校、女池小学校、丸山小学校、結小学校、根岸小学校、五十嵐小学校、潟東小学校

- 平成22年度に配布した「新潟水俣病教師用指導資料集」の普及と活用を図るため、モデル校において、指導資料集を活用した実践を行い、授業記録等の公表により新潟水俣病学習の普及を図る。

（参考）【R4 年度】

- 8 校をモデル校に指定 ※ほかに、新潟市（13 校）
- モデル校 上越市 2 校・妙高市 1 校・五泉市 5 校

4 民間団体等の活動の促進

■新潟水俣病関連情報発信事業

新潟水俣病の教訓を県民に広く普及啓発するため、民間団体等が提案する新潟水俣病の教訓の情報発信を行う事業に対し、補助を実施します。

【R5 年度】

4 団体 4 事業に補助（公募）

〔補助事業〕

○ 新潟大学

「新潟水俣病の社会課題を学び、発信するフィールドワーク・スキルの養成」

【事業目的】

新潟水俣病に関する情報収集、社会問題の捉え方、聞き取りや記述の方法、社会に向けた発信のあり方などについて協働的学習により自主的に学び、そこで得られた問題関心にに基づきフィールドワークを実施した後、広く一般市民に向けて研究成果を発表するための報告会を開催することで、学生の新潟水俣病問題に関する問題意識を涵養し、現在もなお継続する社会問題として、どう立ち向かうべきかを学生が提示する。

【事業内容】

- ・ 学内での講義、協働学習
- ・ 現地実習（現地踏査）
- ・ 市民社会へ向けた発信

○ 新潟県立大学

「新潟水俣病情報発信の高度推進：若い世代にとって有効な水俣病の伝承方法に関する調査」

【事業目的】

熊本県水俣市において、被害の実態を学びながら水俣病をどのように理解し、未来に向けた環境認識の共有をどのように市民生活ではかっているのかを学び、新潟においても阿賀野川流域の訪問と特別講義、ワークショップを連携させながら、水俣病事件を風化させない多様な語り方を確認し、その中で若い世代にはどのような語り方が有効かを検討し、水俣病事件を繰り返さない効果的な伝承方法を見出すことで、新潟における今後の情報発信に関する施策につなげていく。

また、学内にある水俣病関連情報コーナーを活用し、学生や地域住民が自主的かつ自然に新潟水俣病に関する知識を修得できるようにする。

また、水俣及び阿賀野川流域訪問の成果を多様な授業や、事業主体共同のシンポジウムで報告していく。

【事業内容】

- ・ 阿賀野川流域視察、フィールドワーク
- ・ 熊本県水俣市周辺訪問
- ・ 特別講義、ワークショップ
- ・ 事業主体共同シンポジウムによる地域に向けた発信

○ 新潟医療福祉大学

「誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくり推進事業

－新潟水俣病の学びをとおしたQOLサポーターの育成－

【事業目的】

- ①事業の主体となる学生の新潟水俣病に対する正しい理解と持続的な活動に向けた動機づけを高める。
- ②交流活動や健康教室等を通じて信頼関係を形成できた患者の方々から「主観的体験としての事実」を聴き取り、次世代に伝えるための記録を集積する。
- ③学生等による発生地域の現地学習を通じて、「誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現」に向けた意識や行動の変容を図る。
- ④同意の得られた患者の自宅等に学生が訪問し、学びを得たり話し相手になる生活支援の有効性について検討する。
- ⑤事業主体共同フォーラムや事業報告会等による「誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現」に向けた啓発活動を行い、新潟水俣病関連施策の推進に寄与する。

【事業内容】

- ・ 新潟水俣病に関する事前学習プログラム
- ・ 新潟水俣病患者へのアウトリーチの試行
- ・ 新潟水俣病患者からの語り部による口演
- ・ 新潟水俣病患者への聴き取り
- ・ 新潟県における現地学習
- ・ 新潟水俣病患者との交流プログラム
- ・ 新潟県民に対する情報発信プログラム

○ 上越教育大学

「教員養成課程の学生と現職教員らの協働による

子どもたちが伝え・学び合う新潟水俣病小中学校学習プログラム実践」

【事業目的】

令和4年度の事業で作成した「新潟水俣病を学び伝える小中学校社会科学習プログラム」を上越教育大学の学生や新潟県の教員による授業実践により、新潟県内の子どもたちが新潟水俣病について深く学ぶとともに、それを県内外に伝えることで、被害者が抱えてきた痛みと真摯に向き合い、社会全体で支えらるとともに、このような悲惨な公害が二度と繰り返されることなく、誰もが安心して暮らすことのできる地域社会を形成することができる市民の育成を目指す。

【事業内容】

- ・ 環境と人間のふれあい館、阿賀野川流域等、新潟水俣病関連施設のフィールドワークによる資料収集、現地学習会の開催
- ・ 中学校社会科教員と学生、大学教員との協働による授業実践と検証

＜4大学合同フォーラム－これからどしたっ！－＞

日 時：令和6年3月3日（日） 13時～16時

会 場：新潟大学駅南キャンパスときめいと

内 容：(1) 学生からの発表

- ・ 水俣病に隠れていたもの（新潟大学）
- ・ 旅、歩く、出会うなかでの水俣病（新潟県立大学）
- ・ 新潟水俣病の学びを暮らしやすい地域社会づくりにつなげるために
（新潟医療福祉大学）
- ・ 新潟水俣病を語り継ぐ教師の支援と子どもの育成－語り部のコトバから何を学び、何をどのようにつなぐのか－（上越教育大学）

(2) ワークショップ（来場者参加型）－これからどしたっ！－

定 員： 100名



（参考：R1「3大学合同フォーラム」の様子）※R2以降はオンライン開催のため写真なし

（参考）

年度	補助事業者	事業概要	参加者数
R2	新潟大学	新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム	延べ345名
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：水俣と新潟が発信する水俣病をめぐる地域文化の創造と発信方法に関する比較調査	延べ139名
	新潟医療福祉大学	誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくり推進事業－新潟水俣病の学びをとおしたQOLサポーターの育成－	延べ295名
	新潟青陵大学短期大学部	新潟水俣病の歴史実践	—

R3	新潟大学	新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム	延べ 261 名
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：水俣と新潟が発信する水俣病をめぐる伝承方法と環境意識の形成方法に関する調査	延べ 346 名
	新潟医療福祉大学	誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくり推進事業－新潟水俣病の学びをとおしたQOLサポーターの育成－	延べ 293 名
R4	新潟大学	新潟水俣病の教訓を伝える人材育成プログラム	－
	新潟県立大学	新潟水俣病情報発信の高度推進：水俣と新潟における水俣病をめぐる適切な理解の方法と環境の未来に向けた共通認識の形成に関する調査	延べ 326 名
	新潟医療福祉大学	誰もが安心して暮らすことのできる地域社会づくり推進事業－新潟水俣病の学びをとおしたQOLサポーターの育成－	延べ 310 名
	上越教育大学	新潟水俣病を学び伝える小中学校社会科学習プログラム開発	－

5 ふれあい館の活用と情報発信

■ふれあい館事業

新潟水俣病の教訓を県民に広く普及啓発するため、ふれあい館において、講座や講演会、企画展示等を実施するとともに、展示パネルの整備を行います。

- ふれあい館管理運営協議会において、館事業の実施内容や、展示物・展示方法等について検討し、これを基に事業を実施している。



(県立環境と人間のふれあい館)

【R5 年度】

- 入館者数：16,250名（11月末現在）
 - ※ 開館からの入館者数計758,799名
 - ・ R4年度：20,357名
- 館内等での講演会等や各種パネル展の開催
：講演会等6回、写真・パネル展5回
〔主な講演会等と参加者数〕
 - ・ 阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業パネル展
（4月15日～5月14日）（参加者1,724名）
 - ・ 新潟水俣病写真展「新潟水俣病の歴史と教訓」
（5月17日～6月13日）（2,223名）
 - ・ 講演会「故坂東克彦弁護士と新潟水俣病」（6月25日）
講師：関礼子立教大教授（参加者36名）
 - ・ 一日館長お笑い芸人・高橋なんぐと新潟水俣病を学ぼう！（7月29日）
（会場：環境と人間のふれあい館）（参加者10名）
講師：高橋なんぐ（(有)ナマラエンターテイメント） ※詳細は別途記載
 - ・ 小原王明写真展「阿賀野川と生きていく－AGANO RIVER－」
（9月10日～10月11日）（1,544名）
 - ・ 伊藤芳保写真展「『阿賀に生きる』30年」
（11月11日～12月7日）（1,822名）
 - ・ 新潟水俣病講座4回（参加者合計：433名）
（講師は、環境と人間のふれあい館館長、語り部又は職員等）
 - ①城西大学：89名
 - ②新潟食料農業大学：153名
 - ③新潟医療福祉大学：105名
 - ④新潟大学：86名

〔R4 年度実績〕 講演会等 6 回、パネル展 6 回

年度	主 な 内 容	主な講師等	参加者数
R4	フィールドミュージアム事業パネル展		2,043 名
	W. ユージン・スミスとアイリーン・スミス写真展		1,405 名
	アンコール「第 28 回福島潟フォトコンテスト」入賞作品展		2,922 名
	一日館長お笑い芸人・高橋なんぐと新潟水俣病を学ぼう	高橋なんぐ（ナマラ）	16 名
	講演「ユージン・スミスと私の水俣」	アイリーン・美緒子・スミス	66 名
	新潟水俣病講座（4 回）		409 名

○ 語り部の口演会（ふれあい館または小・中学校等に出張）の実施

・ 回数等：61 回、2,656 名

※ R4 年度：114 回、5,291 名

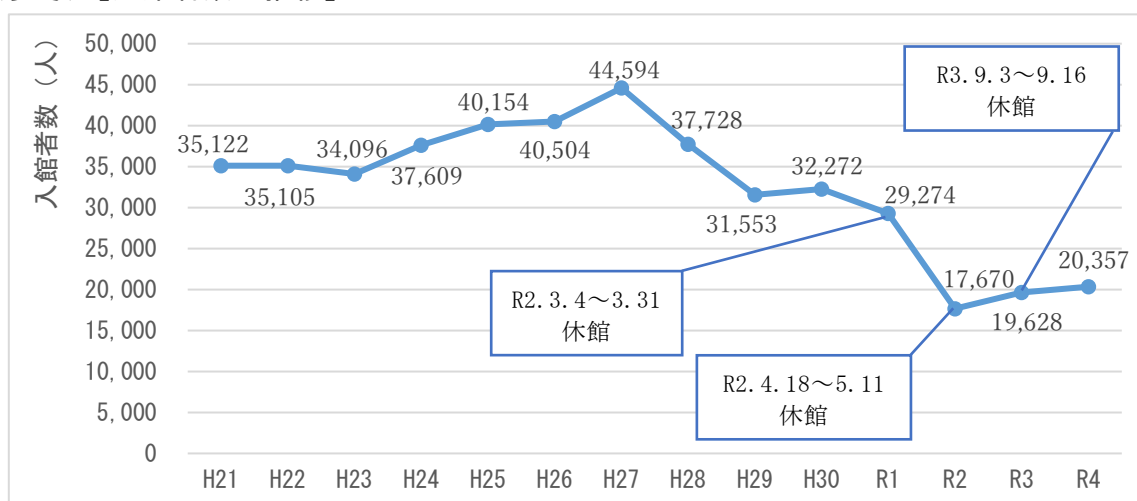


（R5 「語り部口演会」の様子）

○ 展示・施設整備

・ 全館で Wi-Fi 接続が可能なネットワーク環境を整備（令和 4 年度）

（参考）【入館者数の推移】



令和 5 年度：16,250 名（11 月末現在）

※ 開館からの入館者数計：758,799 名（令和 5 年 11 月末現在）

■資料整備促進事業

貴重な新潟水俣病関連資料の散逸、劣化を防ぐため、収集及び保存等を実施します。

- 過去の新潟水俣病裁判記録等資料のデータベース化や、デジタル化を実施
- 主な整備資料の内容
 - ・ 裁判資料（第2次訴訟関係、裁判関係記事掲載新聞資料）
 - ・ 近喜代一氏日記
 - ・ 新聞スクラップ、鹿瀬工場タイムス
 - ・ 機関誌（支援団体、昭和電工関係、四大公害病裁判支援団体関係）
 - ・ 新潟水俣病関係映像・写真・音声資料 など
- 資料整備の状況

区分	映像・音声	写真類	機関誌	新聞	冊子類	資料	書籍類	雑誌	その他
資料数量	501	77	28	72	697	1,743	512	510	11
うち、デジタル化済	501	3	19	52	172	444	8	0	1

※ 資料数量：ふれあい館での管理単位（つづり）による。（資料の点数とは異なる。）

■新潟水俣病学習サポーター事業

教育現場における新潟水俣病学習の普及・充実を図るため、これまで新潟水俣病学習に携わってきた教員OB等を県内小中学校へ派遣し、教職員を対象に、水俣病学習の指導・助言を行います。

【R5年度】

- 新潟水俣病学習サポーター
3名（元新潟水俣病教師用指導資料作成委員）
- 活動実績
 - ① 学習の指導・助言 1校
 - ・ 新潟水俣病学習指導計画について
 - ・ 環境と人間のふれあい館見学前後の指導について
 - ② 教職員研修 5校
 - ・ 新潟水俣病の原因、発症のメカニズム、最近の状況等について、「授業づくり」や「資料活用」などの観点を踏まえての指導



（R5「新潟水俣病学習サポーター」による活動の様子）

○ 指導して感じたこと

- ・ 研修の振り返りでは、各自の体験に照らした「自分の言葉」での「学びと実践への意欲」が感じられた。特に「見ようとしなければ見えない」という感想があったことは、ねらいは達成できたと思う。
- ・ 児童が少しでも自分事として捉えるためにふれあい館の見学や被害者の方との交流等、学習に有効に活かそう意欲的になってくれたと思う。

○ 利用者からの感想

- ・ 新潟水俣病について、分かりやすく学ぶことができた。
- ・ 自分の知っている知識があまりにも少ないと思いました。
- ・ 過去の過ちから何を学び、現在どんな活動が行われているのかまでを知ることで、子どもたちにも解決に向けた思考を持たせられると感じた。
- ・ 広く人権教育を扱う講座もよいが、水俣病に特化した内容の学習で、より深い知識を得られた。そして全体を振り返れば、人権教育の他の事象と深くつながりが感じられた。

【R4 年度】

○ 新潟水俣病学習サポーター

3名（元新潟水俣病教師用指導資料作成委員）

○ 活動実績

- ① 学習の指導・助言 4校
- ② 教職員研修 1校

■一日館長 お笑い芸人・高橋なんぐと新潟水俣病を学ぼう！

新潟水俣病の経験と教訓が若年世代の親子へ効果的に語り継がれることを目的に、お笑い芸人高橋なんぐ氏と阿賀野川流域地域の親子と一緒に館内を探検し、新潟水俣病をテーマに調べ学習を行います。

【R5 年度】

○ スケジュール

- ・ 開催日 令和5年7月29日（土） 午前9時30分～午後0時30分
- ・ 講師 一日館長 高橋なんぐ氏（(有)ナマラエンターテイメント）
サポート講師 環境と人間のふれあい館新潟水俣病学習サポーター
- ・ 内容 ①座学
②高橋なんぐ一日館長を中心に館内探索
③探索で見つけたテーマについて情報を集め、調べたことを整理する。

○ 参加者

親子5組

○ 参加者からの感想

- ・話が分かりやすかった。面白かった。
- ・映像を交えながらで分かりやすかった。
- ・子供が意外に興味を持った。来年もまた来たいと言っている。
- ・話を聞いてから展示を見ることで理解が深まりました。阿賀野川をさかのぼってみたい。
- ・なんぐさんがとても優しい。来年もまた来たいが、その時は今年よりも長い時間がうれしい。



(R5「一日館長」事業の様子)

【R4 年度】

- 開催日 令和4年7月30日(土) 午前9時30分～午後0時30分
- 参加者 親子8組